



## イヌ13歳、ネコ12歳

# ペットの寿命過去最高

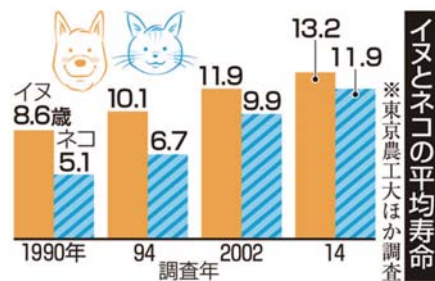
日本でペットとして飼育されるイヌとネコの平均寿命が2014年時点で、13・2歳と11・9歳でそれぞれ過去最高だったことが14日、東京農工大と日本小動物獣医師会の大規模調査で分かった。ワクチン接種の普及などで感染症対策が進んだことなどが理由。25年間でイヌは1・5倍、ネコは2・3倍に延びたとしている。

### 14年・東京農工大など調査

近年、室内飼いが増え、餌や医療環境も大きく改善したことも長寿化に貢献した。同大の林谷秀樹准教授（獣医学）は「ネコのワクチン接種率はまだ低く、寿命は延びる余地がある。飼い主もペットも高齢化するケースがますます増えるだろう」としている。

調査は1990年、94年、02年に次いで4回目。全国192の動物病院で死んだイヌ5977匹、ネコ3288匹のデータから平均寿命を計算した。90年当時のイヌは8・6歳、ネコは5・1歳だった。分析に当たった同大農学

## 普及、餌改善



部獣医学科6年の柳川春香さんによると、イヌは純血種（12・8歳）よりも雑種（14・2歳）が、ネコは雄（11歳）よりも雌（12・9歳）が長生きだった。感染症が死因となった割合は、イヌが90年の約30%から約2・5%と激減、ネコも同じく約25%から約12%に下がった。ワクチン接種率はイヌの約82%に対し、ネコは約54%だった。

（2016年9月15日付・岩手日報27面）

※寿命＝じゅみょう、過去最高＝かこさいこう、東京農工大＝とうきょうのうこうだい、調査＝ちょうさ、歳＝さい、普及＝ふきゅう、餌＝えさ、改善＝かいぜん、飼育＝しいく、平均＝へいきん、獣医師会＝じゅういしかい、大規模＝だいきぼ、接種＝せっしゅ、感染症対策＝かんせんしょうたいさく、理由＝りゆう、延びた＝のびた、室内飼＝しつないがい、医療環境＝いりょうかんきょう、准教授＝じゅんきょうじゅ、疫学＝えきがく、率＝りつ、余地＝よち、高齢化＝こうれいか、病院＝びょういん、計算＝けいさん、当時＝とうじ、分析＝ぶんせき、農学部＝のうがくぶ、純血種＝じゅんけつしゅ、雑種＝ざっしゅ、死因＝しいん、割合＝わりあい、激減＝げきげん、

① 1994年のイヌとネコの平均寿命は何歳ですか。

② 見出しの「□□□□普及、餌改善」の空欄（カタカナ）にはどんな言葉が入りますか。

③ あなたはイヌとネコのどちらが好きですか。理由も書きましょう。

年 組 名前